

北のとびら

vol. 127

令和4年8月



留萌
特集

特集 | 加藤拓也 interview

劇団た組「ドードーが落下する」札幌公演

アート巡礼 留萌 / つくる人 in 遠別町 泊和幸

ジモトデザイン 苫前町・ReTAKO

人づくり一本木基金奨学生レポート / ART FILE おおば比呂司

新進気鋭の作家が率いる劇団た組初の北海道公演

Interview
加藤 拓也

演劇から映像まで幅広いフィールドで活躍し多方面で注目を集める演出家・劇作家の加藤拓也。劇団た組の新作「ドロー」が落下する」は自身初となる全国ツアーであり、北海道初公演です。躍進を続ける若き才能のこれまでの歩み、そして北海道初公演への思いとは。本格的な稽古を控える最中、お話を伺いました。

演劇は観客の脳と俳優で物語を組み立てていくもの



「ぼに」(2021) 撮影:東 花行

—高校在学中に構成作家としてのキャリアをスタートさせていますが、きっかけは何だったのでしょうか。

文章を書くことを面白がっていたので、ブログを書いていました。ブログに「日常の事ではなく本当っぽい嘘」を読んだ人が嘘だとわかるけど書くようになり、やがてそれが何かを書くという行動に繋がったように思います。正直な所強い体験は無いのでぬるりとしています。

—映像演出と演劇について学ぶため18歳でイタリヤに渡ったとのことですが、イタリヤで得た忘れがたい体験などはありますか。

ヘリコプターの助手席に空撮の練習として乗せてもらいました。僕がカメラを持ってです。ドアを全部外してシートベルト一本で

乗った事は、当時のぼんやりした記憶の中でも割と覚えている事です。ヘリコプターの運転手が酒を飲んでいたのでふらふらした飛行でした。今だと絶対に乗らないですね。

—20歳で帰国後に「劇団た組」を立ち上げるなど、映像だけではなく、演劇を表現の一つとして選ばれています。

演劇には映像作品と違った許があります。観客の脳と俳優で物語を組み立てていくという作業です。表現手段には演劇であるべき理由が必要だと思いますが、物語には演劇であるべき理由はないと思います。つまり、物語自身は場所を選んだりしません。僕らが勝手に物語をフォーマットして媒体を選んでいるので、表現手段には理由が存在します。



本人近影 撮影:山崎泰治

ツアーが終わった時に自分が何を思っているのか楽しんでいます



加藤拓也(かとう たくや)
1993年生まれ。大阪府出身。脚本家、演出家、映画監督。17歳の時からラジオ、テレビ番組の構成作家を始める。18歳の時にイタリアへ渡り、映像演出を学ぶ。帰国後、ホームレスを経て9人シェアハウスの1畳半の部屋に入居、ルームメイトの影響で演劇を始める。「劇団た組」を主宰、全作品の脚本・演出を担当。「友達」(2021年シス・カンパニー)、「たむらざん」(2020年シス・カンパニー)、「MISHIMA2020『真夏の死』」(2020年梅田芸術劇場)、「もはやしずか」(2022年アミューズ)など外部プロデュース作品の脚本・演出でも注目される。映像脚本では2022年NHK『きれいのくに』で第10回市川森一脚本賞を受賞。2019年日本テレビ『俺のスカート、どこ行った?』(脚本)など。近作に舞台「ザ・ウェルキン」(2022年7月~8月シス・カンパニー)、映画「わたし達はおとな」(2022年6月公開)。フォスター所属。

劇団た組

「ドードーが落下する」

【作・演出】加藤拓也
【出演】藤原季節、平原テツ、秋元龍太郎 他

公演日時 **2022年10月22日(土) 18:00開演**
23日(日) 14:00開演

会場 **クリエイティブスタジオ**
札幌市中央区北1条西1丁目 札幌市民交流プラザ3階

料金 **全席指定・税込**
前売券 一般/3,500円 U-25/2,000円
当日券 一般/4,000円 U-25/2,500円
※U-25券は要証明書

STORY

イベント制作会社に勤める信也(藤原季節)と芸人の庄田(秋元龍太郎)は芸人仲間である夏目(平原テツ)からの電話に胸騒ぎを感じる。三年前、夏目は信也や友人達に飛び降りると電話をかけ、その後失踪していた。しかしその二年後、再び信也に夏目から連絡がある。夏目は「とある事情」が原因で警察病院に入院していたそうで、その「とある事情」を説明する。それから信也達と夏目は再び集まるようになったものの、その「とある事情」は夏目と友人達の関係を変えてしまっていた。信也達と夏目との三年間を巡る青春失踪劇。



●公演に関するお問合せ
公益財団法人北海道文化財団 TEL:011-272-0501(土日祝除く9:00~17:30)
http://haf.jp/event_takumi-dodo.html
主催:公益財団法人北海道文化財団
札幌文化芸術劇場hitaru(札幌市芸術文化財団)
企画・制作:合同会社わをん企画
後援:北海道 制作協力:ダブルス
協力:有限会社quinada、tatt Inc.、ラボチ



「ドードーが落下する」を書いていて、青春の感覚が蘇りました



写真は恋人との関係性をたゆたう女性の所在なさを描いた「ぼに」(2021年た組)。松本穂香、藤原季節、平原テツ、津村知与支、豊田エリー、金子岳憲、秋元龍太郎、安川まりが出演した。
撮影:東花行

「原作ものをはじめ、多くのオリジナル作品も手がけていらっしゃいます。作品を生む原動力となっているものは何でしょうか。」
「作品によって様々です。一貫しているものは無いかもしれませんが、楽しめるかどうかは優先したいと考えています。」

「6月に公開した映画「わたし達はおとな」も含め、藤原季節さんとのタッグが非常に多い印象です。改めて、藤原季節さんという役者の魅力や、共に作品をつくることで得られるものなどを教えてください。」
「一緒にやっていると楽しいというのが一番魅力かもしれない。」

「最新作「ドードーが落下する」の稽古を控えた今、どのような作品になりそうでしょうか?」
「劇団た組は北海道初上陸となります。藤原季節さんにとって、ここ最近の数作品はどれもとても大事な作品になりました。新しい手触りみたいなものがそれぞれ、次々とやってきて、それはこれと同じです。書いていて青春の感覚が蘇りました。稽古がとても楽しみです。」

留萌巡礼で探すアート

※新型コロナウイルス感染症の状況によって掲載されている営業時間やイベント開催日時等が変更になる場合があります。

05 留萌の自然、歴史、文化を網羅する施設 留萌市海のふるさと館



日本海や留萌の誕生を語る貝の化石、ニシン漁で栄えた浜の道具、古い時代の留萌を映した映像など留萌の自然、歴史、文化について学べる施設です。留萌市出身の映画音楽の巨匠・佐藤勝に関する展示も。

- 住所 / 留萌市大町2丁目3-1 ●TEL.0164-43-6677
- アクセス / JR留萌駅から車で約5分・深川留萌自動車道留萌ICから車で約7分
- 開館時間 / 9:00~18:00 ●休館日 / 無休(冬期休館あり)
- 入館料 / 無料 ●駐車場 / あり
- https://www.rumoi-rasisa.jp/web/

06 まち歩きで出会う留萌出身ミュージシャンたち RUMAR



AR(拡張現実)を活用した、まち歩きをしながら留萌出身ミュージシャンたちによる限定エピソードトークが楽しめるご当地コンテンツ。アーティストたちが語るまちの記憶を、留萌の景色や空気と共に楽しめます。

- TEL.0164-42-1809(留萌市役所政策調整課)
- https://yuisaeki1211.wixsite.com/rumar ※ARについては調整中
- 参加アーティスト / あがた森魚、掟ポルシェ、上原子友康(怒髪天)、射守矢雄(bloodthirsty butchers)、小松正宏(bloodthirsty butchers)

07 120年前の建築技術と意匠を楽しむ 旧商家丸一本間家



明治時代の姿をそのまま現在に伝える旧商家丸一本間家。屋根瓦の一枚一枚には家紋が彫り込まれ、壁面や門柱には洋風の装飾が施されるなど、当時の建築職人の心意気が感じられます。

- 住所 / 増毛町弁天町1丁目 ●TEL.0164-53-1511
- アクセス / 留萌市街から車で20分
- 開館時間 / 10:00~17:00(最終入館時間16:30) ●休館日 / 毎週木曜、冬期閉館
- 入館料 / 大人400円、高校生300円、小・中学生200円 ●駐車場 / なし
- https://www.town.mashike.hokkaido.jp/honmake/index.html



Art JUNREI

アート巡礼

刺激がいっぱい
留萌のアートスポット

01 コミュニティカフェやレンタルスペースとして活用 SUNNY SPACE



「笑顔が集まる場所づくり」がコンセプトのレンタルコミュニティスペース。毎月1回オープンする「CAFE TE to TE+(テト・プラス)」では子供縁日や動画鑑賞会など様々な催しが開催され、幅広い世代の交流の場となっています。

- 住所 / 天塩町海岸通4丁目108-1 ●TEL.01632-2-3342
- アクセス / 「道の駅てしお」から車で5分
- 営業時間 / 9:00~18:00 ●定休日 / 不定休
- 入場料 / イベントによる ●駐車場 / あり

02 道北日本海側にある天文台 しょさんべつ天文台



ドラマ「白線流し」のロケ地としても有名な天文台。道内有数の大きさを誇る65cmフォーク式反射天体望遠鏡で夜空の星を間近で観察可能。星に自分の好きな名前を登録できる「マイスターズシステム」も人気です。

- 住所 / 初山別村字豊岬153-7 ●TEL.0164-67-2539
- アクセス / 沿岸バス「岬センター前」から徒歩5分
- 開館時間 / 12:00~19:00(10月~11月、3月)、14:00~21:00(4月~9月、冬期閉館期間(12月~2月))
- 休館日 / 火曜・水曜 ●入館料 / 高校生以上200円、小・中学生100円、幼児無料
- 駐車場 / あり ●http://www.vill.shosanbetsu.lg.jp/shtenmon

03 昭和48年創業の喫茶店に併設 綿羊工房 アイランド サフォーク



老舗喫茶「ガロ」が立ち上げた工房。焼尻島の町営牧場で刈られたサフォークの糸を使い、手編みのセーターやカウチンジャケットなどを製作、展示・販売しています。糸紡ぎやマスコットづくりなどの体験も好評。

- 住所 / 羽幌町南4条3丁目2番地 ●TEL.0164-62-1529
- アクセス / 沿岸バス「本社」から徒歩3分
- 営業時間 / 9:00~18:00 ●定休日 / 不定休
- 体験料 / 大人500~1,000円、子ども500円 ●駐車場 / あり

04 陶芸家の指導のもと、製作体験も 鬼鹿焼 いちい窯



陶芸家・村井フミ子さんによって編み出された「鬼鹿焼」にはホタテの貝殻や木炭など、地元の素材が使われています。展示・販売スペースが併設された工房では、陶芸体験も可能です。

- 住所 / 小平町字鬼鹿田代121-2 ●TEL.0164-57-1209
- アクセス / 道北バス「鬼鹿港町3区」から徒歩5分
- 開館時間 / 9:00~16:00 ●定休日 / 不定休
- 入場料 / 無料、陶芸体験は3,500円~(完成品は後日郵送します※送料別途)
- 駐車場 / あり

日常に溶け込むデザインの魅力に迫る！



▶パッケージデザインに採用されたのはデザイナーの関塚真歩さん。小笠原さんの考えに賛同し、デザインがその原動力のひとつになることを願い、考案

海 産物の商品パッケージといえば、機能的重視。冷凍冷蔵に対応できる真空パックに、波、魚、船のモチーフ、フォントは筆文字……といったデザインが目立ちます。苫前町で沿岸漁業を行う「inaka BLUE」が手がけた「ReTAKO(リタコ)」のパッケージは、それらとはまさに対極。シンプルで爽やかなデザインが印象的です。「ReTAKO」は、「inaka BLUE」の代表であり、苫前町の漁師でもある小笠原宏一さんが、漁業が抱える課題解決のために推

進しているプロジェクト名であり、ミズダコ加工品のブランド名。2022年初夏に、ブランドの商品化と販売を目指していた小笠原さん。「パッケージはこの新しい取り組みを象徴するような未来的で親しみのあるデザインにしたい」と考えていた時に、経済産業省・北海道経済産業局が主催する北海道の事業者から商品を、そして全国からパッケージデザインを募集し商品化に繋げる取り組み「パッケージデザインコンテスト北海道2021」のことを知ります。この

取り組みにエントリーしたところ、熱意が伝わり見事採択。多くの応募の中から、「パーツのひとつ一つに、「ReTAKO」にとって重要なものが象徴的に捉えられている」として採用されたのがこのデザインでした。ジャケットは吸盤をモチーフにした2色の円が連なり、海洋生態系と漁業のバランスを表現。箱を並べれば円弧は無限に繋がる仕様が、「豊かな海を未来につなぐ」という小笠原さんの理念にもマッチしています。また、箱のインナーには「ReTAKO」のコンセプトと豊かな苫前の海が。箱を開けてから取り出すまでのプロセスを通して、「ReTAKO」の取り組みや生産者の想いを伝える役割も担っています。2022年3月、同コンテストでこのパッケージはグランプリを獲得。商品も試作を重ね、「ゆでダコ」と聞いて想像するそれとは一線を画す食感と味わ



▲箱の中にはメッセージと、商品のルーツでもある苫前の海の写真を印刷した数紙を使用

いを実現させ、同年7月に遂に「ReTAKO」を商品化。ECサイトも立ち上げて、贈答品としても人気を集めています。「苫前の海の恵みとそのおいしさの再発見、それらを取り巻く資源の現状や海を知るきっかけになれば」と小笠原さん。同じ志を持ち、持続可能な漁業に取り組む漁業者と共に、新たな商品の開発にも前向きです。今後カッコいい漁業、やさしい漁業の象徴となるようなデザインで、「ReTAKO」を苫前から全国へ。挑戦は続きます。

オンラインショップのQRコードはこちら



自然写真家・株式会社「野生塾」代表取締役 泊和幸

北 北海道北部を流れる遠別川。空中を狙うミサゴに、傾斜地に構えた自作の小屋の中でカメラを向けるのは自然写真家の泊和幸さん。「ミサゴやオジロワシなど様々な野鳥が魚の争奪戦を繰り広げていて、キツネもヒグマもいる。遠別川には食物連鎖がしっかりとあるんです」生まれ育った遠別町で写真を撮り始めたのは50年近く前のこと。遠別の大自然は子供の頃からの遊び場。昆虫採集から始まり、動植物や風景を絵で表現しようとしたものの「才能がなくてね(笑)。遠別農業高校在学中に写真を撮り始めてからのめり込み、以来、農業の傍ら写真を撮り続けてきました」とそのきっかけを振り返ります。



泊和幸 (とまりかずゆき) 遠別町生まれ。遠別農業高校在学中に野鳥の撮影を始め卒業後、農業の傍ら野生動物の撮影を続ける。2015年、株式会社野生塾を設立。著作に「鷲たちとボクの30年」、「海ワシ物語」(源草社)、「飛べない白鳥ハク」(彩流社)等。現在新作を制作中。

日々、命の攻防を繰り返す野生動物たちは、音や気配など些細な変化にも敏感です。「川や草木、野生動物を含め環境にはリズムがあります。例えば私が決定的瞬間を前に、気持ち昂らせてシャッターを切ろうとするとき、そのリズムは崩れ、彼らは異変を察知してその場を離れてしまう。気配を消し、自らも風景の一部となるのが大切ですよ」と語ります。「これまで一人で撮影していたけれど、60歳を境に遠別の魅力を積極的に伝えたいと考えるようになった」と、2015年に株式会社野生塾を設立。道内外より集まった30人近い塾生に撮影技術や遠別町の魅力を伝えながら、フォトグラフィとしての歩みも続けています。現在は、秋に出版



「大物の魚を捕えるミサゴ」(撮影/泊和幸)



北海道が生んだ偉大な漫画家の、謎に満ちた絵本作品パネル展

内 気でおとなしい性格だったものの、オリジナル漫画を描きクラスの人気を集めるなど、ずば抜けた絵の才能を発揮していたおおば比呂司。戦後、北海道新聞社図案課（現デザイン課）に入社し、カット絵や挿絵描きに明け暮れ

ていました。忙しい日々の中、漫画家としても活動を始め、1951（昭和26）年と1956（昭和31）年には登竜門である二科展漫画部に入選。1958（昭和33）年に北海道新聞社を退職してフリーに転身し、一念発起して上京。当時の漫画ブームも重なり、やなせたかしや手塚治虫、石ノ森章太郎、藤子不二雄など、名だたる漫画家たちと並び、瞬く間に時代の寵児となりました。

現在開催中の『原作絵本パネル展「セクッペと下駄」』は、おおば比呂司生誕100年祭展の一環で、未発表絵本「セクッペと下駄」の

原画をパネルで紹介しています。「セクッペ」とはアイヌ語で“ぼっちょりとしたかわいい男の子”の意味で、本作はアイヌ民族のちいさな男の子が珍騒動を巻き起こす物語。威厳あるアイヌ長老やお供のかわいいウサギ、北海道らしい大地に湧き出る温泉、野山を駆け回りくるくると表情を変えるセクッペの様子など、おおば比呂司が感情を込めて描いた様子が目に浮かぶような作品です。しかしながらこの絵本、いつ描かれたのか、ど

うやってセクッペが誕生したのかなど、詳細はわかっていません。長男の大場伸之さんは作風から北海道新聞社時代と予想しているものの、当時のエピソードは謎に包まれたまま。この未発表作品は、アイヌ協会ほか多くの学識者の協力のもと、文字の誤りや補足、時代考証などを行い、没後30年にあたる2018年に出版されました。イキイキと躍動するセクッペが繰り広げる物語を、この原画パネル展を通して体感してください。



おおば比呂司 (1921-1988)

札幌市出身。「広報ほっかいどう」表紙絵や北海道新聞の挿絵など、その温かくほのぼのとしたユニークな画風で長年多くのファンに愛された。札幌市資料館内に開設された「おおば比呂司記念室」には、平成7年の開設以降、100万人を超える市民・観光客が訪れている。

●公式WEBサイト
<http://www.oba-hiroshi.com>



入場無料
おおば比呂司生誕100年記念
原作絵本パネル展『セクッペと下駄』

2022.8.1～9.22 9:00～17:00 ※最終日は15:00終了 ※土日祝休館 ※都合により臨時休館する場合があります。
場所／北海道文化財団アールスペース（札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F）
問い合わせ／011-272-0501

VR展示公開中！ <https://my.matterport.com/show/?m=wy9EZ6BpiFb>



北の住まい設計社 | 家具デザイナー
城浦光希 shiroura Kouki

人づくり 一本木基金とは

長原實氏とスチウレ・エンゲル氏からの寄附をもとに創設した基金。「工芸美術及びものづくり等の分野」における振興発展と人材育成のため、道内在住・道内出身者を対象とした事業を実施しています。

<https://www.haf.jp/ippongi/index.html>

東 川町の廃校になった小学校に工房を構え、道産無垢材を使った職人の手仕事が生きる家具づくりや家づくりを行なっている「北の住まい設計社」。「自然と共に生きること、暮らすこと」を大切にしたものづくりの姿勢や暮らしの提案で、道内外に多くのファンを抱えています。そんな「北の住まい設計社」で働く城浦光希さんは入社5年

目の家具デザイナー。3年目にして同社の組立家具シリーズ「LIM(リム)」のデザインを手掛けるなど、目覚ましい活躍を続ける城浦さんですが、彼の学生時代を支えたのが「人づくり一本木基金」の奨学生援助事業でした。小学生の頃、自室に勉強机のデザインが似合わないという理由から机を自作したことをきっかけに、家具づくりに興味

をもったという城浦さん。中学校卒業後は札幌の実家を離れ、おといねっぶ美術工芸高等学校に進学。道具の手入れなど木工の基礎知識を学んだ。大学は木製家具のデザイン・制作を専門とする中尾紀行教授のゼミで学ぶため、東海大学デザイン文化学科へ。城浦さんにこの基金の存在を教えてくれたのも中尾教授でした。「アルバイトに割く時間が惜しくて」という城浦さんにとって、返済不要のこの給付型奨学金は非常にありがたい制度で、「技術と知識を磨きたいと考えて進学した私に、創作の時間を与えてくれました」と語ります。サンスター文具による「文房

具アイデアコンテスト」で審査員特別賞、美術系大学に在籍する学生を対象としたデザインコンペティション「さっぽろアートステージ2017 University student ART competition」でグランプリを獲得するなど、在学中にもものづくりの喜びと技術を積み重ねていった城浦さん。「本来ならばアルバイトをしていた時間を全て創作に充て、様々な挑戦の機会を得ることができました」と充実した学生時代を振り返ります。「デザインとは考えること」と語る城浦さん。東川町の豊かな木々に囲まれながら、今日も自然と暮らしに寄り添った家具づくりのために思索を続けています。



ショールームの一角にある「LIM」シリーズ。小さな梱包で送り届けられることができる組み立て家具は、輸送時の消費エネルギーを抑え、地球環境への配慮につながる。「お客様自らが組み立てを行うので、構造自体もこれまでと異なる視点で考えました。手軽に組み立てることができる機能性と、従来の家具同様に無垢材と職人の手仕事が生きる美しい意匠性。LIMはこの二つを兼ね備えた新しい試みとなりました。」(城浦さん)



取材協力

北の住まい設計社
東川町東7号北7線
TEL 0166-82-4556
<http://www.kitanosumaiseikeisha.com>

財団事業インフォメーション(2022年9月～11月)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公演やイベント等の開催が変更または中止になる場合があります。公演等の実施については、事前にそれぞれの問い合わせ先にご確認ください。また、各公演等の開演時間・入場料についてはお問い合わせ先にご連絡ください。

文化提携交流事業

●北芸亭・寄席演芸講座「玉川太福・曲師玉川みね子の浪曲入門講座」

日時:2022年10月10日(月・祝)

会場:北海道立道民活動センターかでの2・7

1階レクリエーション研修室

問い合わせ:(公財)北海道文化財団 ☎011-272-0501

アートシアター鑑賞事業

●風間杜夫ひとり芝居

苫小牧市公演

日時:2022年9月9日(金)

会場:苫小牧市文化会館

問い合わせ:帰ってきたカラオケマン苫小牧公演実行委員会 ☎0144-32-6752

斜里町公演

日時:2022年9月11日(日)

会場:斜里町公民館

問い合わせ:斜里町 ☎0152-22-2222

●マームとジブシー「cococon」

伊達市公演

日時:2022年9月17日(土)

会場:だて歴史の杜カルチャーセンター

問い合わせ:NPO法人伊達メセナ協会 ☎0142-22-1515

士別市朝日町公演

日時:2022年9月23日(金)

会場:あさひサンライズホール

問い合わせ:(一社)舞藝舎 ☎0165-28-3146

●大井健ピアノリサイタル

幌延町公演

日時:2022年10月7日(金)

会場:幌延深地層研究センター国際交流施設

問い合わせ:幌延町教育委員会 ☎01632-5-1321

北見市公演

日時:2022年11月12日(土)

会場:北見芸術文化ホール

問い合わせ:株式会社日連連北見 ☎0157-31-0909

●知れば知るほど面白い!北海道民謡コンサート!

標津町公演

日時:2022年10月9日(日)

会場:標津町生涯学習センター

問い合わせ:標津町文化協会 ☎0153-82-2900

新十津川町公演

日時:2022年11月15日(火)

会場:新十津川町総合健康福祉センター

問い合わせ:新十津川町文化協会 ☎0125-76-4233

●ヴァイオリンカルテットHIKAblef

日時:2022年10月16日(日)

会場:木古内町中央公民館

問い合わせ:木古内町教育委員会 ☎01392-2-2224

●和楽器三銃士コンサート

日時:2022年10月22日(土)

会場:東神楽町総合福祉会館

問い合わせ:東神楽町 ☎0166-83-5407

●ランス室内楽団コンサート〜クラシックは楽しい!〜

日時:2022年10月29日(土)

会場:壮瞥町地域交流センター

問い合わせ:壮瞥町地域交流センター運営ボランティア実行委員会

☎0142-66-2131

●白石加代子「百物語」

音更町公演

日時:2022年11月24日(木)

会場:音更町文化センター

問い合わせ:NPO法人音更町文化事業協会 ☎0155-31-5215

七飯町公演

日時:2022年11月26日(土)

会場:七飯町文化センター

問い合わせ:七飯町文化協会 ☎0138-66-2068

まちの文化創造事業

●蘭越町秋のアートまつり〜0歳から100歳への道しるべプロジェクトin蘭越〜

日時:2022年9月25日(日)

会場:蘭越町民センターらぶちゃんホール

問い合わせ:蘭越町教育委員会 ☎0136-57-5030

●第9回いっしょにね!文化祭

日時:2022年10月1日(土)

会場:北翔大学札幌円山キャンパス

問い合わせ:NPO法人三角山 ☎011-676-3955

●第20回ふらの演劇祭

日時:2022年10月8日(土)〜10日(月・祝)

会場:富良野演劇工場

問い合わせ:NPO法人ふらの演劇工房 ☎0167-39-0333

●北海道陶芸展50周年・北海道シニア陶芸展40周年記念事業

北海道陶芸の変遷vol.2—現代陶芸の今—

日時:2022年10月22日(土)〜11月6日(日)

会場:札幌芸術の森美術館

問い合わせ:北海道陶芸協会 ☎011-611-1805

●HOKKAIDO PHOTO FESTA 2022

日時:①2022年10月15日(土)〜11月19日(土)

②2022年10月24日(月)〜30日(日)

会場:①salon cojica ②モエレ沼公園

問い合わせ:HOKKAIDO PHOTO FESTA実行委員会 桑田 ☎080-6090-9835

●北海道くしろ蝦夷太鼓保存会 55周年記念公演

日時:2022年10月30日(日)

会場:コーチャンフォー釧路文化ホール

問い合わせ:北海道くしろ蝦夷太鼓保存会 増子 ☎090-8276-9577

●創立25周年たきかわ車人形「ひろみ座」公演

日時:2022年11月3日(木・祝)

会場:滝川市民交流プラザ(ホテルスエヒロ内)

問い合わせ:NPO法人アートステージ空知 ☎0125-23-6330

●函館市民ミュージカル2022「はこだてRap So Day」

日時:2022年11月13日(日)

会場:函館市民会館

問い合わせ:「はこだてRap So Day」実行委員会 ☎0138-57-3111

●第13回函館子ども歌舞伎公演

日時:2022年11月20日(日)

会場:函館市民会館

問い合わせ:函館子ども歌舞伎を育てる会 ☎090-2817-8510

●劇団新劇場 劇場創立60周年記念公演

日時:2022年11月25日(金)〜27日(日)

会場:生活支援型文化施設コンカリーニョ

問い合わせ:劇団新劇場 栗原 ☎090-2070-8547

●第2回千歳市民ミュージカル開催事業

日時:2022年11月26日(土)〜27日(日)

会場:北ガス文化ホール(千歳市民文化センター)

問い合わせ:千歳市民ミュージカル実行委員会

委員長 釣 ☎090-2812-1014

INFO

WEBマガジン「北のとびら」。冊子にはない情報も!ぜひご覧ください。

WEBマガジンはこちらから!

<https://haf.jp/kitanotobira/>

